

社会福祉法人 北海道社会福祉協議会

北海道障がい者就労支援センター

# 就労支援業務事業評価書

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

平成28年6月

指定法人事業評価委員会

## ■ 評価の基本的な考え方

指定法人事業評価委員会は、北海道障がい者及び障がい児の権利擁護並びに障がい者及び障がい児が暮らしやすい地域づくりの推進に関する条例(平成21年北海道条例第50号)第31条第8項の規定に基づき、社会福祉法人 北海道社会福祉協議会(北海道障がい者就労支援センター)の平成27年度における障がい者就労支援業務の実績について、以下の基本的な考え方により評価を行った。

評価の実施に当たっては、北海道が示した、指定法人要求水準書に定めた事業ごとに、その実績を記載した就労支援業務事業報告書及び法人からの聴取を基に評価委員の全体協議により「項目別評価」及び「全体評価」を行う。

### 1 項目別評価

指定法人要求水準書に掲げる事業ごとに、平成27年度の事業計画の達成状況について、4段階により評価する。

A: 計画に基づき適正に実施されており、特筆すべき内容である。

B: 計画に基づき適正に実施されている。

C: 計画に対し、やや不十分な内容である。

D: 計画に基づき実施されておらず、重大な改善事項がある。

※C及びD評価の場合は、指摘及び改善事項等について、意見を付すものとする。

### 2 全体評価

項目別評価の結果を踏まえて、平成27年度における事業実績の全体について、上記により4段階評価する。

## ■ 指定法人事業評価委員会委員

分野	所属・役職	氏名	備考
学識者	北翔大学生涯スポーツ学部 教授	梶 晴 美	委員長
保健福祉関係者	くしろ・ねむろ障がい者就業・生活支援 センター ぷれん センター長	高 谷 さふみ	委員
企業関係者	株式会社ほくでんアソシエ 代表取締役社長	大 前 雅 嗣	委員

## ■ 指定法人事業評価委員会開催

開催日時 平成28年6月13日(月)14:00~16:30

開催場所 道庁9階 職員監会議室

実施項目及び要求水準	業務の実績(平成27年4月～平成28年3月)	評価	意見等
<b>全 体 評 価</b>			
<p>授産事業所における収益力の向上等を図るため、第3期障がい者就労支援推進計画に基づき、授産事業の経営力向上や受注拡大等に向けた支援の取組を行う。</p>	<p>関係機関との連携を図りながら、授産事業所のニーズに応えた指導、助言及び研修を実施し、事業所の経営改善や販路拡大に向けた取組を実施した。</p>	<b>B</b>	<p>※計画に基づき、適正に実施されている</p> <p>集合経営相談や研修においてアンケート調査を実施しているが、調査結果の分析が不十分であった。          今後は、調査結果から企業や事業所が何を望んでいるかを把握し、他の事業項目に活用する取組を期待する。</p>
<b>I 工賃向上計画の策定・推進事業</b>			
<p>「工賃向上計画」策定事業所等に対し、専門家等を派遣するなどし、経営相談・技術指導等を実施。</p> <p>■ 個別経営相談          経営の専門家である中小企業診断士により、各事業所が作成している「工賃向上計画」に基づいた個別経営相談を実施することにより、授産事業所における計画の適切な推進とそれによる工賃の向上を図る。</p> <p>【要求水準】          ★ 授産事業所のニーズに対応した方法(実施地域・時期等)で実施されること          ★ 経営等に関し十分な知識を有するコンサルタントが選任されること</p>	<p>■ 個別経営相談</p> <p>① &lt;個別経営相談(集合)&gt;          ・ 実施 平成28年3月10日(木)          ・ 内容 中小企業診断士による「工賃向上計画」策定の推進          ・ 相談件数 8施設8件          ・ 相談料を無料としたことにより、件数が大幅に増加した。          ・ 担当中小企業診断士:2名(野崎 晴行 小松 康晴)          ・ なお、別添のとおりHPに公表。          【個別経営相談(集合)の詳細は別添資料1のとおり】</p> <p>&lt;個別経営相談(派遣)&gt;          ・ 実施 4事業所 ※マッチング事例の中から、必要に応じ専門コーディネータが都度対応          ・ 対応者:大泉浩一中小企業診断士(専門コーディネータ)          ・ 対応件数:4事業所          ・ 内容          「事業所の経営が厳しい」          「店頭に置く商品について悩んでいる」          「製品のブラッシュアップを行いたい」          「地元特産品を用いた商品を開発したい」          との相談に対して、都度アドバイスを行った。          【個別経営相談(派遣)の概要は別添資料2のとおり】</p>	<b>B</b>	<p>※計画に基づき、適正に実施されている</p> <p>27年度は相談料を無料化し、相談内容も公表したが、件数は伸び悩んだ。          さらに相談件数を増加させるため、事業所のニーズを細かく把握する等の取組が望まれる。</p>

実施項目及び要求水準	業務の実績(平成27年4月～平成28年3月)	評価	意見等
<p>■ 経営・技術指導            企業経営に関する基礎知識や製造技術等の専門技術等に関する講習等の実施により、授産事業所における企業経営的ノウハウの導入及び職員の資質の向上を図る。</p> <p>【要求水準】            ★ 授産事業所のニーズを踏まえた内容設定がなされること            ★ 企業経営的ノウハウの導入、職員の資質向上(営業力向上等)に向けた効果的な取組であること</p>	<p>1 経営コンサルタントの確保と活用</p> <p>① 工賃倍増集中対策事業で活動実績のある中小企業診断士による、個別経営相談を実施した。            ・中小企業診断士 野崎 晴行 氏            ・中小企業診断士 小松 康晴 氏</p> <p>② 「工賃向上計画」策定・実現ノウハウ集(H27年度版)の作成及びホームページでの公開を行った。</p> <p>③ 中小企業診断士執筆の工賃向上に関するメールマガジン「工賃向上ワンポイント」の配信を実施した。            ・執筆者 中小企業診断士 小松 康晴氏            ・平成27年度①～⑥号を配信。</p> <p>■ 経営・技術指導</p> <p>① 授産施設・事業所経営セミナーの実施</p> <p>● 社会就労センター施設長・職員研修会の実施            ・ とき 平成27年6月10日(水)～11日(木)            ・ ところ 札幌市／北海道自治労会館            ・ 参加者 101名            ・ 内容            1)中央情勢報告            全国社会就労センター協議会 副会長 高江 智和理 氏            2)講義1「社会福祉法人に求められる生活困窮者及び触法障害者の支援について」            東北福祉大学 総合福祉学部 教授 阿部 裕二 氏            3)講義2「マイナンバー制度・ストレスチェック制度へ向けた事業者の対応について」            宮島社会保険労務士事務所 宮島 康之氏            4)講義3「障害者施設等設置者・管理者の責務」            ～虐待事案の対応と設置者・管理者の役割～            社会福祉法人音更晩成園 常務理事 菅原 資之 氏</p>	<p>A</p>	<p>※計画に基づき適正に実施されており、特筆すべき内容である。</p> <p>研修会の開催回数や参加者が増え、充実が図られている。製品製作技術研修の視察先選定に少し偏りが見られたので、様々な製品分野(事業所)から幅広く選択することが望ましい。</p>

実施項目及び要求水準	業務の実績(平成27年4月～平成28年3月)	評価	意見等
	<p>● 事業所経営セミナーの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ とき 平成28年3月9日(水)～10日(木)</li> <li>・ ところ 札幌市／北海道自治労会館</li> <li>・ 参加者 93名</li> <li>・ 内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)中央情勢報告 全国社会就労センター協議会 会長 阿由葉 寛 氏</li> <li>2)講義1「障害者差別解消法 施設及び地域での合理的配慮について」 松泉グループ総合施設長 光増 昌久 氏</li> <li>3)講義2「障がい者就労支援事業所職員のリスク対応について」 札幌・石川法律事務所 弁護士 石川 和弘 氏</li> </ul> </li> </ul> <p>② 製品製作技術研修会の開催</p> <p>● 利用者の工賃向上と就労支援を考える研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ とき 平成27年9月29日(火)～30日(水)</li> <li>・ ところ 札幌市／かでの2.7</li> <li>・ 参加者 86名</li> <li>・ 内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)講義1「これからの就労支援事業の戦略と経営」 全国セルフ協 調査研究研修委員長 内藤 晃 氏</li> <li>2)先進地視察 <ul style="list-style-type: none"> <li>・光生舎フロンティア(就労継続支援A型)</li> <li>・ともに福祉会(就労継続支援型・就労移行支援)</li> <li>・特殊衣料(リネンサプライ・清掃・福祉用具)</li> </ul> </li> <li>3)シンポジウム「A型及びB型事業所の実践を通して工賃向上を考える」 司 会 北海道セルフ協調査研究研修委員長 田中秀典氏 助 言 全国セルフ協調査研究研修委員長 内藤晃 氏 シンポジスト(事例発表者) <ul style="list-style-type: none"> <li>・光生舎フロンティア 施設長 金見 隆一 氏</li> <li>・ひかり工房 施設長 小畑 友希 氏</li> <li>・きっちんどう 施設長 横田 雅之 氏</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>		

実施項目及び要求水準	業務の実績(平成27年4月～平成28年3月)	評価	意見等
<p>■ 授産事業所に関するアイデア募集 授産事業所職員や一般道民などから、授産事業に関するアイデアを募集し、その内容について実現の可能性等を検討するなどして、事業の改善や新たな取り組みにつなげる。</p> <p>【要求水準】 ★ 寄せられたアイデアは、客観的に分析・検討を行い、実現性のある取組については、有効かつ効果的に活用される内容であること。</p>	<p>■ 授産事業所に関するアイデア募集</p> <p>● 実施結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マッチングコーディネーター業務、スタッフ業務の中で、企業や関係者等からアイデアや提案を聴取した。</li> <li>・ スティックハチミツのアイデアが、一般企業(道外企業)に採用された。</li> <li>・ 実施できるアイデアは少ないのが実情。</li> <li>・ アイデア件数増加の為、道セルブ協各種研修にてアイデアのアンケートを実施する予定。</li> <li>・ H27年度残念ながら実施に至らなかったアイデアとして、野菜直売所への授産製品出品(手数料折り合わずとん挫)</li> <li>・ 公共機関食堂での共同した業務委託(供給体制に問題)</li> <li>・ 中元、歳暮などイベントに合せたギフトセットの開発がある。(詰合せ実施となると送料で非常に割高となり頓挫)</li> <li>・ 中元、歳暮等のギフトについては、H28年度ネットを活用した新たな方法で実施予定。</li> </ul>	<p><b>B</b></p>	<p>※計画に基づき、適正に実施されている</p> <p>頓挫したアイデアも多いが、昨年度に引き続き、1件が一般企業の商品に採用された。 企業からの大量発注に対応するためには、事業所が連携して供給体制を整える必要があるため、連携の更なる促進を期待する。</p>
II 授産事業所間の連携・共同化			
<p>授産事業所の販路の確保・拡大や新規事業の検討、事業改善を図るため複数の授産事業所間による連携・共同化に向けた授産事業所へのアドバイスや業務の調整等を実施。</p> <p>■ 授産事業所間連携・共同化の促進 授産事業所間による事業の連携・共同化の促進を図るとため、モデル事例の周知を図るとともに、連携・共同化に向けたアドバイス等を行う。</p> <p>【要求水準】 ★ 十分な知識を有するアドバイザーの選任されること ★ 連携・共同化に向けた効果的な実施内容であること</p>	<p>■ 授産事業所間連携・共同化の促進</p> <p>● 実態の把握</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 販路開拓事業地域スタッフによる訪問・聴き取り調査等により授産事業所等の事業内容・商品等について、実態の把握を行った。</li> <li>② 把握した実態をもとにマッチング事業コーディネーター(中小企業診断士)によるアドバイス等助言及び支援共同化の可能性のある授産事業所について検討を行った。</li> </ol>	<p><b>C</b></p>	<p>※計画に対し、やや不十分な内容である。</p> <p>各種イベントの出展調整等、新しい取組が行われているが、実績に結びついていない。 地域との連携強化や施設外就労以外の連携など、抜本的な見直しが必要である。</p>



実施項目及び要求水準	業務の実績(平成27年4月～平成28年3月)	評価	意見等
<p>■ 商品開発に関する研修            企業担当者等による商品開発等に関する実践的アドバイスにより、授産事業所の商品・サービスの向上を図る。</p> <p>【要求水準】</p> <p>★ 授産事業所や市場ニーズを踏まえたテーマ等が設定されること</p> <p>★ 十分な知識を有する者を講師が選任されること</p>	<p>26年度より利用件数を引き上げるために、27年度は相談料の無料化を行った。しかし、件数は1件にとどまった。</p> <p>具体的な製品改良アドバイスを求めるためには、商品に対するそれ相応の相応の作りこみが求められ、特に小規模な作業所においては、まずは商品開発のヒントを気軽に得ることが出来るような場が求められていると考える。</p> <p>平成28年度は、その点に着目してプログラム構成を行う。</p> <p>■ 商品開発に関する研修</p> <p>1 実施結果</p> <p>● 看板商品・人気商品を作り出す研修会            ～手に入れようヒット商品！～ の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ とき 平成28年1月21日(木)</li> <li>・ ところ 札幌市／北海道自治労会館</li> <li>・ 参加者 74名</li> <li>・</li> </ul> <p>内 容</p> <p>講義1「デザインの重要性と既存商品の改善」            札幌市立大学デザイン学部 専任講師 福田 大年 氏</p> <p>講義2「ヒット商品・人気商品の傾向」            株式会社北海道百科 常務取締役 勝浦 忠 氏</p> <p>ワークショップ</p> <p>司 会 北海道セルフ協 田中 秀典 氏</p> <p>助言者 福田 大年 氏 勝浦 忠 氏</p> <p>発表者 ① 社会福祉法人タラブ「i・box」            ② 社会福祉法人栗山ゆりの会「ハロー-ENJOY」            ③ NPO法人ホップ障害者地域生活            支援センター「あてんど」</p>	<p>A</p>	<p>※計画に基づき適正に実施されており、特筆すべき内容である。</p> <p>研修内容は受講者から好評で、今後の効果が期待できる。アンケート結果を次回の研修に反映させ、より良い研修の実施を期待する。</p>



実施項目及び要求水準	業務の実績(平成27年4月～平成28年3月)	評価	意見等
<p>IV マッチングサポート事業</p> <p>授産事業所の製品・サービスの受注拡大を図るため、授産事業所と企業等とのビジネスマッチングに関するサポートを行う。</p> <p>■ マッチング事業〔共同受注システム〕</p> <p>授産事業所の製品やサービスの販路の確保・拡大を図るため、インターネット上で企業等が発注する仕事と授産事業所のマッチングの場を設けるとともに、専門コーディネーターによる受発注のコーディネートを行う。</p> <p>また、地域での複数事業所による原材料の共同仕入れや企業の発注ニーズに対する作業量及び作業工程の分担受注等の調整を行うほか、道の各部局等における授産事業所等からの優先調達の相談窓口として、適正な情報提供や助言を行う。</p> <p>・共同受注システムの運営 ・専門コーディネーターの配置 ・優先調達の推進 ・授産製品、サービスのPR ・事業の周知活動</p> <p>【要求水準】</p> <p>★ 経営、マーケティング等に関し、十分な知識等を有するコーディネーターが配置されること</p> <p>★ コーディネーター等による積極的に新規企業の開拓が図られるものであること</p> <p>★ 利用者の利便性を考慮するとともに、アクセス数増が期待できる魅力ある専用ホームページ(共同受注システム)の構築・運営がなされること</p> <p>★ 授産事業所の連携・共同化に向けた実現性のある取組であること</p> <p>★ 道の各部局等への情報提供は、定期的かつ活用されやすいものであること</p> <p>★ マッチング事業及び授産事業所の製品・サービスの認知度向上が期待できる効果的かつ効率的な事業のPR方法であること</p>	<p>■ マッチング事業〔共同受注システム〕</p> <p>1 共同受注システム(ナイスハートネット北海道)の運営</p> <p>● 登録状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本情報登録:808施設 登録対象:968事業所(83.5%) (H28.3月末現在)</li> </ul> <p>● 登録・更新の呼びかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修会などでチラシの配布を行った。メルマガを発行した。</li> </ul> <p>● ホームページの更新・事例紹介・ページの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>おすすめ製品を紹介するコーナーを作成・更新を行った。</li> </ul> <p>● ナイスハートネット全国版及び都府県版の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年3月に全国版ポータルサイトの更新を実施。各県版からの情報が集約され一層の利用者増が見込まれる。【ナイスハートネットアクセス解析は別添資料5のとおり】</li> </ul> <p>2 専門コーディネーター・地域スタッフの配置及び活動内容</p> <p>① マッチング事業(H20.10～現在)コーディネーターで実績のある中小企業診断士(大泉浩一 氏)を委嘱。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>札幌に地域スタッフを配置した。</li> </ul> <p>② 活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授産事業所と企業とのマッチングコーディネート</li> <li>マッチングシステムの紹介(企業へ)</li> <li>受注に当たっての、授産事業所へのアドバイス</li> <li>製品開発・改良へのアドバイス、専門家の紹介</li> </ul> <p>・マッチング実績 平成27年度 商談成立124件 【マッチングの概要は別添資料6のとおり】</p>	<p>A</p>	<p>※計画に基づき適正に実施されており、特筆すべき内容である。</p> <p>26年度よりマッチング件数が増え、さらに登録・更新の呼びかけを複数回行っていることは高く評価できる。</p> <p>さらなる事業強化のため、事業所間連携の促進を期待する。</p>

実施項目及び要求水準	業務の実績(平成27年4月～平成28年3月)	評価	意見等
	<p>4 授産製品・サービスのPR</p> <p>① 「ナイスハートネット北海道」による紹介 ・ 商品登録施設事業所数:392件</p> <p>② 北海道社会福祉協議会広報誌「明るい社会」への掲載 ・ 季刊(年4回)。コーナー「きらきらマルシェ」を設け3事業所の製品を紹介。毎号1製品を読者プレゼントとした。 【誌面は別添資料7のとおり】</p> <p>③ 授産製品販売会等への出店・販売等 ● 出展販売:催事11回、売上(2,408千円) ● 出店調整:イトーヨーカ堂アリオ札幌店の授産製品販売会「ナイスハートフェアinアリオ札幌」への出店者調整を行った。 ● 委託販売:催事9回(社協夏祭り等)、売上(279千円) ● 受注販売:12回(道社協内販売、広報誌プレゼント)、売上(39千円) ● 常設販売:納品調整・売上額の送金事務 ・ 赤れんが売店(株小六)H22年6月～。H27年度482千円) ・ クスリのツルハH23年8月～。H27年度(134千円) ※ツルハ常設販売は、7月をもって終了。</p> <p>④ パネル展開催への協力 ・ 障がい者授産施設・共同作業所パネル展示会(H27.8/24～26) ・ いきいき福祉・健康フェア(H27.10/16-18)</p> <p>⑤ 授産製品のチラシ、パンフレットの活用 ・ 各種研修会・イベントでチラシパンフレットを配布した 【チラシは別添資料8のとおり】</p> <p>⑥ 授産製品販売支援 ● セイコーマートポイントカード交換用景品への推薦 ・ 新商品提案: 9事業所 42品 採用:8品目 【採用結果のカタログは別添資料9のとおり】 ● 赤れんが売店(株小六)への商品提案 ・ 採用:3事業所 11商品 ● JAIFA(生命保険ファイナンシャルプランナー協会) 研修会における授産製品販売会の出展調整 ・ 合計4回。延べ8事業所出展 ● 道庁庁舎内授産弁当販売事業所の調整 ・ 2事業所により販売実施</p> <p>5 事業の周知活動</p> <p>① ホームページによる事業紹介 ・ センターホームページの運営・更新を行った。 更新回数28回(イベント周知、販路拡大に係るお知らせなど)</p>		

実施項目及び要求水準	業務の実績(平成27年4月～平成28年3月)	評価	意見等
<p>■ 多様な販路の確保  授産事業所の製品やサービスの新たな販路の開拓等を図るため、経済団体や企業等が主催する商談会やイベント販売等へ参加し、商談会における商品提案力等の向上を図るための研修会等を実施する。</p> <p>【要求水準】  ★ 出店事業所・商品の選定方法は合理的な方法であること  ★ 研修は事業所の現状及びニーズを踏まえたものであること</p>	<p>② 必要に応じたマスコミ等への情報提供  ・ 障がい者授産施設・共同作業所パネル展示会(H27.8/24～26)の様子を、NHKニュースにて放送。木工品の売上好調。(テレビを見たという木工品購入希望者数名来場)</p> <p>③ 必要に応じた社会福祉関係会議における周知依頼  ・ ナイスハートネット北海道パンフレットを配布した。  配布先: 研修会での配布、各事業所、関係団体、マッチング商談企業等へ配布  ・ 北海道社協広報誌「明るい社会」(季刊 年4回)に毎号ナイスハートネットの紹介を掲載、各種会議で配付【別添資料7のとおり※再掲】</p> <p>④ 市町村向け優先調達推進法メールマガジンの発行  優先調達推進法の日のお知らせ・道内授産作業所情報提供  ※各市町村のメールアドレス提供を受けなかったため特別に1回だけ道庁から配信していただいた。(H27.6.26配信)</p> <p>■ 多様な販路の確保  1 授産施設・事業所向け商談会の実施  ・ と き 平成27年9月16日(水)  ・ ところ 札幌市／かでの2. 7  ・ 参加者 8事業所  ・ 内 容  説明「コープさっぽろご当地ドック事業の概要について」  商談「商品取引に向けた商談について」サンプル品の評価意見交換会  ・ 講師: 株式会社エフエム通商 石野 弘子 氏  ※ 出品製品中1製品(コーヒー豆)が、ドック採用に至った。  出品製品  ・パン ・冷凍ぎょうざ ・元祖ごません ・クッキー  ・トマトジャム ドライトマト ・スティックブラン  ・道産小麦の焼き菓子 フロランタン ・コーヒー豆  〔周知方法の改善〕  ドックへの掲載は要求水準が高いことから、参加を躊躇する事業所があることを懸念し、商品进行评估していただく目的での参加についても認めることとし、周知を行った。  【採用結果のチラシは別添資料10のとおり】</p>	<p>B</p>	<p>※計画に基づき、適正に実施されている</p> <p>高い要求水準を超えて1製品が採用された実績は大きいですが、参加事業所数を増やすため、周知方法等の見直しを望む。  26年度、27年度と同じ企業との商談であったため、他業種へのアプローチを行うことによる更なる販路拡大を期待する。</p>

実施項目及び要求水準	業務の実績(平成27年4月～平成28年3月)	評価	意見等
V アクション及び企業認証制度の普及・啓発事業			
<p>企業等による障がい者就労支援に対する理解と取組を促進するため、「障がい者就労支援の輪を広げる取組～一人1アクション(以下「アクション」という)及び障がい者就労支援企業認証制度(以下、「企業認証制度」という)の普及・啓発を行う。</p> <p>■ アクション及び企業認証制度            アクション及び企業認証制度による登録件数拡大に向け、登録申請受付及び普及・啓発活動を行う。</p> <p>【要求水準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 申請受付の適切・迅速な処理がなされる体制であること</li> <li>★ 登録・認証企業の公表内容・手段等が効果的であること</li> <li>★ 平成29年度末までに認証企業数200件の目標達成に向けた、効果的な制度のPR方法であること</li> </ul>	<p>■ アクション及び企業認証制度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 申請受付件数            [アクション]            ・ 企業サポーター 1件(24年度)、4件(25年度)、1件(26年度) 1件(27年度)</li> <li>2 普及・啓発活動            ・ 道民1人1アクションへの改変に合わせホームページの改変を行った。</li> </ol>	<p><b>B</b></p>	<p>※計画に基づき、適正に実施されている</p> <p>アクションについては、登録するメリットがないため普及啓発は難しいかもしれない。            今後も、コーディネーターを中心とした活動に期待する。</p>